



# 若竹だよい



【私たちの願い】 ①よろこんで与える人間となろう ②いのちを大切に作る人間となろう  
③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

法人の社会貢献事業 ①四国八十八ヵ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

## 【巻頭言】

### 「挑戦」するには

園長 宮竹 恒

夏の終わりに発生しました大型台風の被害に遭われた地域の皆様方に心よりお見舞い申し上げます。

当園は、幸い、被害に遭うことなく過ごすことができ有難いと思っています。

さて、2学期が始まり、子どもたちは各々に目標を持って学校生活を行っています。

中学生が在籍する下笠居中学校の学校教育目標は「志を立て夢に向かって挑戦する生徒の育成」です。モットーは「挑戦」です。

子どもによって「挑戦」する目標も内容も変わってきます。初めてのことに不安感を強く感じる子もいれば、興味があることはどんどんやってみようとする子もいます。集団活動すること自体が「挑戦」になる子どももいます。自分の気持ちを友達に伝える事、例えば嫌なことを断ることが出来る事が「挑戦」になる子もいます。

子どもたちが「挑戦」するには、何が必要か考えた時、学園が目標にしている、子どもの「主体性を育むこと」と非常に関係が深いものがあります。

「主体性」は、自分の意志や判断に基づき、責任を持って行動することですが、英語では「independence」(インデペンデンス)と訳されます。より「自立」の意味合いが強く感じられます。

「主体性」があると、自分のやりたいことを自分で選んで取り組みます。しかし、「主体性」がないと、自分で決めることが苦手で、周囲の反応が気になって合わせるようになります。何かに「挑戦」しようとする気持ちの前に不安や恐れがあり、一步を踏み出すのに大変勇気が必要になります。

「主体性」を育むには、選択肢を与え自己決定できる機会を増やす事、失敗をしても良いと思えること(失敗は成功のもと!)、異年齢の子どもとの交流が大切であると言われていいます。そして、前提として、「安全」「安心」な環境で、無条件な愛情を与えられた体験が必要であると思います。学園で生活する中で子どもたちが受容された経験を積み重ね、自分の個性が尊いと思え、自信が出来たら良いなと思います。

子どもたちは、学校生活を通して社会の一端を学んでいます。その先には「進学」や「就職」、そして「自立」が待っています。

子どもたちが将来の夢を持ち「挑戦」出来るよう、「主体性」を育むための関わりや活動が出来ているか、日々、振り返る必要があると考えています。

大人になっても、失敗を恐れず、苦手なこと、新しいことに挑戦することは簡単なことではありません。子どもたちと一緒に、一歩ずつ「挑戦」していくことが出来ればと思います。

— 一 —

# 青峰・若竹学級だよ

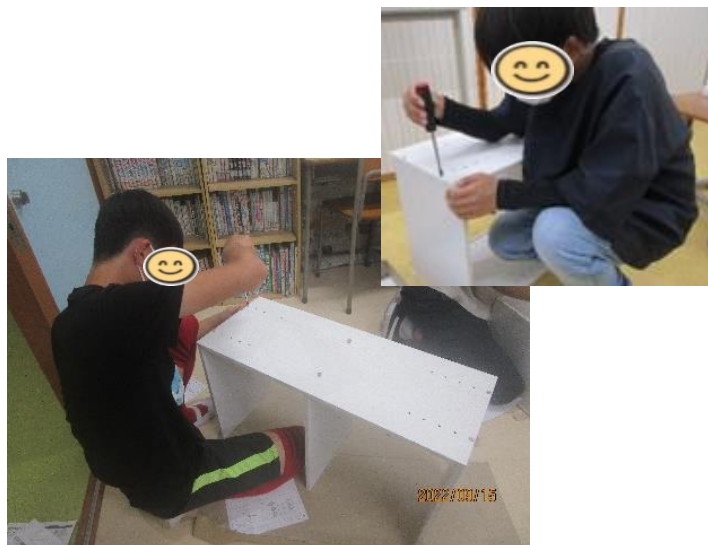
## 始業式

令和4年度2学期始業式を行いました。周りの人たちに支えられていることに感謝して勉学に励んでほしいとお話がありました。



## 技術

教科書等を収納するカラーボックスを作りました。自分で説明書を読み、ドライバーを使って組み立てました。お互いにアドバイスをしたり協力したりする場面も見られました。今後も大事に使ってくれそうです。



## 診断・夏休み明けテスト

中学校3年生は第2回学習の診断を、1・2年生は夏休み明けテストを受けました。最後まで集中して取り組んでいました。



## 美術

身の周りのデザインについて学習しました。電化製品のデザインが目的に応じたものであることや、香川県内にある有名な建築物についても学習しました。最後には、学園内で自分のお気に入りのデザインをタブレットで撮影し、まとめました。



## カヌー体験

国分寺橋ノ丘総合運動公園でカヌー体験を行いました。始めは漕いでもなかなか進むことができませんでしたが、みんなどんどん上達していきました。インストラクターの方の話をよく聞いて、準備から片付けまで協力してできました。





# キャンプ

今年度は、児童心理治療施設の行事として再度キャンプについて検討した結果、子どもの主体性を一番に考え計画をたてました。テント・食事の手順書を作成しました。子どもたちにも、火起こし、食材切り、飯盒等の役割を任命しました。職員も、キャンプ担当の他、テント大臣・食事大臣・余暇大臣、広報大臣等、部門のリーダーを配置し、全員が責任をもって参加できるようにしました。

職員が、余計な口を出すことなく、子どもたちのペースで動けるようある程度余裕をもったスケジュールにしました。

雨天のため延期になってしまいましたが、8月29日、30日に徳島県の祖谷溪キャンプ村に行きました。

祖谷溪と言えば、自然の山々に囲まれており、よく秘境と称されています。祖谷川の清流が流れており圧巻な絶景でした。澄んだ川の水は川底が見える程でとても魅力的でした。

到着後、事前に練習したテントを建て、昼食後は、お待ちかねの川遊びです。泳いだり、



飛び込んだり、魚取りやその他にも様々な遊びにチャレンジしていました。普段屋内で過ごすことが多い子どもが誰よりも率先して高い岩から飛び込み、最高の笑顔でした。川には、小さな小魚やカエルまで生息しており、小さ

いやマメを山本と名前を付けて追いかけている子どももいました。取れても、キャッチ&リリースで逃がしてやりました。



先月練習したライフジャケットもきちんと手順通り着用する事が出来ました。

希望者には、川の石を絵具でペイントやおやつ作りのワークショップをしました。おやつ作りではみたらし団子を作りました。屋外で自分のしたいことを選択し、生き生きとした姿と笑顔が溢れていました。



1日目の夕食ではBBQをしました。



それぞれの班で自分の役割の手順書を見ながら行いました。お肉や野菜も率先して焼いたり、取り分けたりしてくれました。残ったご飯を焼きおにぎりにして食べた班もありました。また、食後の片付けもそれぞれの班で協力して





スムーズに行うことが出来ました。片付けが早く終わった班の人が、まだ終わっていない班の片付けを手伝ってくれる場面もあり、感心しました。

夕食後は、肝試しや花火をして皆で楽しみました。肝試しでは、勇気をふり絞って1人で参加する子どももいました。多くの子どもたちが「楽しかった。またしたい。」と言ってくれました。

2日目の朝食は、ハンバーガーを作りました。班ごとに、お肉を焼く係・野菜を一口サイズに分ける係を決めて行いました。マヨネーズとケチャップをかける最後の味付けは、一人ひとりが自分のお好みでしました。

食後は、食器洗いやテントの片付け、荷物の



の積み込みなどを子どもたちと職員が協力して行いました。子どもたちが積極的に協力してくれたおかげで

想定よりも早く片付けを終わらせることが出来ました。

最後に職員から子どもにダンスを披露しました。日ごろ職員は、子どもが苦手なことを前向きに進める支援を当たり前のようにしています。キャンプを企画する際「本当に子どもの気持ちに寄り添えているのか？」考え、職員が苦手なダンスに真摯に向き合う姿勢を

子どもに披露することになりました。まだまだ練習が必要な部分もありましたが、観客である子どもたちの笑顔と拍手を見ることが出来て、とても嬉しかったです。普段とは異なる場所に行き、自然に身を委ね、マイナスイオンを感じ、たくさん元気を貰いました。ここでしか味わえない一時を堪能する事ができ、子ども大人含め満足のいくキャンプとなりました。

## 9月行事

18日	おやつづくり
25日	誕生日ケーキづくり
8月29日～30日	キャンプ

### 在籍人数

令和4年10月1日現在

区分	県内(人)	県外(人)	合計(人)
小学生	2	0	2
中学生	8	1	9
合計	10	1	11

### 編集後記

台風が過ぎ、気温も下がってきており、秋の訪れも感じます。まだまだ残暑が残る日もありますが、秋らしいイベントが出来たらと思います。



井上

### 第432発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp>

Eメール [wakatake@4on.or.jp](mailto:wakatake@4on.or.jp)

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 宮竹 恒

